

世界へ広がる日本の税金

大阪市立花乃井中学校3年 齋藤 佳歩

二〇二一年七月二十三日、東京オリンピックの開会式が行われました。ドローンパフォーマンスやジャズと歌舞伎の融合。どの演目も本当に素晴らしかったのですが、私の中では選手の入場行進が一番印象に残っています。それは「Refugee Olympic Team」(難民選手団)の存在を初めて知るきっかけになったからです。

そもそも「難民」とは人種や宗教の理由から他国へ逃れた人々のことです。彼らは難民キャンプと呼ばれる場所で集団生活をしながら苛酷な毎日を送っています。調べていく中で栄養失調になってしまい命を落とす子どもたちや大きな傷を負った人々の写真を見て、人ごとではない、私たち日本人にも何かできることはないのかと考えるようになりました。そこで見つけたのが「経済協力費」です。経済協力費とは国際社会の平和を願って、世界の人々を支援するためのお金のことで日常生活をしていく中で納めている「税金」の一部が使われています。税金という言葉には「国のために使うお金」というイメージを持っていましたが実際は「世界のために使うお金」のことだったのです。日本の場合は国の一般会計収入額の〇.五パーセントである五一〇八億円を開発途上国の援助に充てています。このことを知った時、私はとても感動しました。私たちが何気なく納めている税金がこの世界のどこかにいる人の命を救うかもしれない。難民キャンプで暮らす人々の栄養食、水、衣類、そして薬などに姿を変えて誰かの命を救っているところを想像すると胸がいっぱいになります。勿論、日本人の中にはなぜ顔も知らない誰かのためにお金を使わなければならないのかこの支援自体に反対の人もたくさんいると思います。でも、私たちは顔も知らない誰かに救われてきたから今を生きることができているのです。世界の平和を願うのなら、誰かからもらった優しさを次は自分が誰かのために使わないことには平和な世の中は一生訪れないでしょう。一人でも多くの人を幸せにすることができるのであれば、この経済支援にはお金以上の価値があると私は考えています。

二〇十五年の九月の国連サミットで持続可能な社会目標を意味する「SDGs」が採択されました。大きく分けると十七の目標があるのですがその十六番目の目標に「平和と公平を全ての人に」というものがあります。税金を上手に使えば世界から貧困や飢餓、社会格差をなくし、この目標の達成に一步近づくのではないかなと私は思います。税金が姿を変えて、世界中の暮らしを豊かにしていく原動力になることを心から願っています。